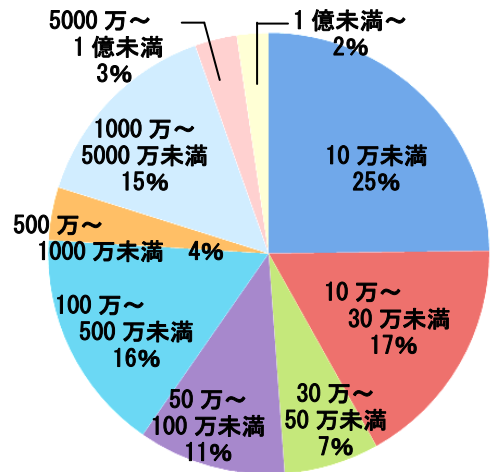


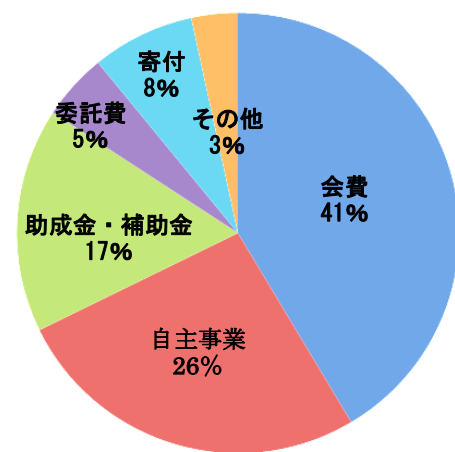
八王子の市民活動アンケート結果 (N=170)

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。八王子の市民活動団体 420 団体にアンケートを依頼し、170 件の回答がありました。このページでは、アンケート調査の全てを掲載することが出来ませんので、ごく一部の概要のみ掲載致します。皆さまからいただいたアンケート結果は貴重な資料として、今後の支援センターの運営や市民活動団体サポートに活かしていくつもりです。紙面の都合でグラフの解説等は省略いたします。

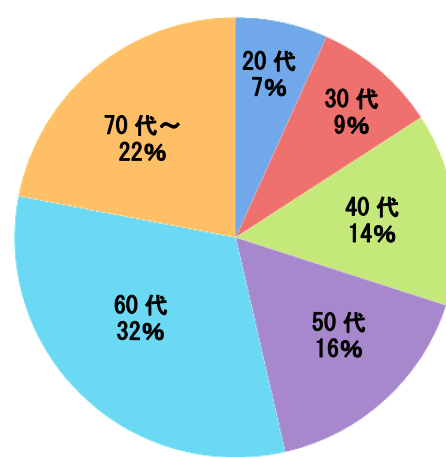
● 市民活動団体の事業規模



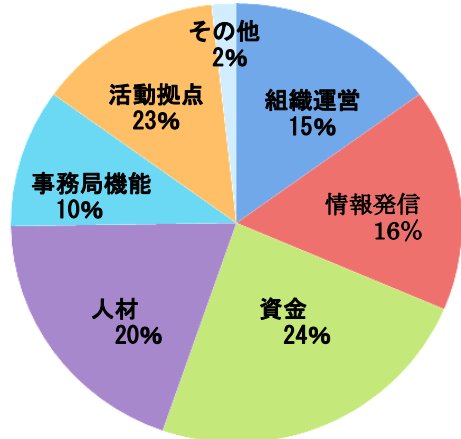
● 事業収入の割合



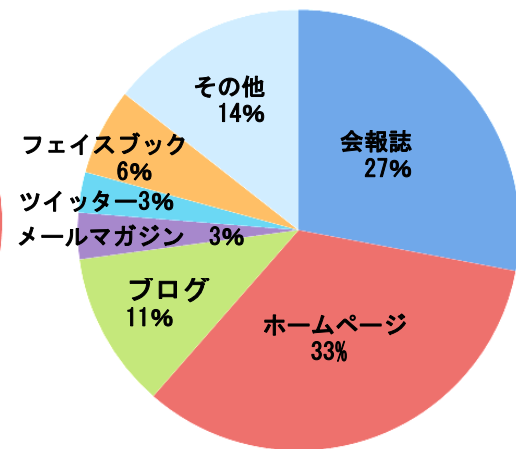
● 運営スタッフの年齢



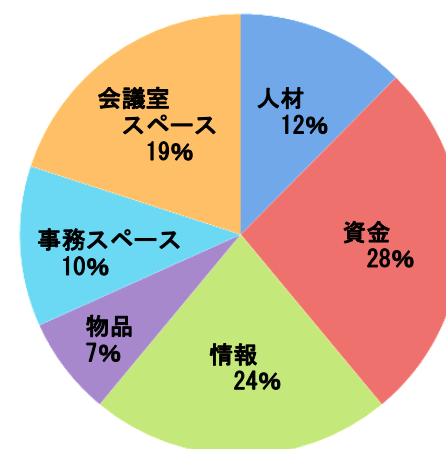
● 団体が課題になっていること



● 情報発信の方法



● どのような支援が必要ですか



● 自由意見

- 町会の会館を利用させてもらって体験講習を開き、地域の方に楽しんでもらい、出身地のわら細工のことなどを話してもらい、交流を語りたい。
- 会員が常時集まれる場所があれば、能率的な活動ができる。
- 活動資金が不足。当団体は障害児を持つ母親たちの集まりのため、融資など多額の資金調達はできない。そのため、店舗や活動拠点が持てず、事業拡大になかなかつながらない。
- 運営委員の高齢化が課題。全て自費のボランティア活動のため、経済的・時間的余裕がないと難しい。活動成果もなかなか具体的ににならないので、活動に魅力がないかも知れない。
- 役員、理事の高齢化が課題。若手の人材育成が必要。後継者不足。
- 事務所が持てないが、賃料の補助などの制度があると良い。
- コミュニティビジネス育成とはいえず、研修施設等で公的な施設を借りることが、利益を生むのではとこのことになかなか出来ないのが現状。ボランティアとは別にコミュニティビジネス育成のために低額な貸出室があるとありがたい。



アンケートへのご協力、ありがとうございました。アンケートの結果は、紙面の関係上すべてを掲載できないため、ホームページに掲載する予定です。



平成 25 年 1 月 1 日 (火)

SUPPORT 802

特集号 八王子市民活動事情

八王子市民活動支援センター
〒192-0063 八王子市旭町12番1号ファルマ802ビル5階
電話: 042-646-1677 FAX: 042-646-1687
メール: ope802@shiencenter-hachioji.org
URL: http://www.shiencenter-hachioji.org/

まちを支える市民活動の可能性

～「今」と「これから」を多いに語る～

参加者

- | | |
|------------|---------------------------|
| 板垣美保子さん | (特)子どもネット“八王子” |
| 吉田恭子さん | (特)エンツリー |
| 高井大輔さん | チャレンジから始まる地域の元気 ISSE |
| 炭谷晃男さん | 八王子子どもの居場所づくりプロジェクト『タマリバ』 |
| 塩谷暢生さん | 里山農業クラブ |
| 支援センタースタッフ | (植村・川久保・兒嶋・関・辻村) |
| 司会 大山健三 | (支援センター・センター長) |



司会：今日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。八王子の市民活動の現状やこれからのあり方についてお話をさせていただきたいと、日頃から精力的に活動をされている皆様にお集まりいただきました。まずは、皆様の活動をご紹介します。

高井さん：若者と地域の魅力ある大人を結び付けて、勉強会や地域課題を一緒に考える「ISSE」を運営しています。

板垣さん：家庭支援を目的に活動しています。子ども電話相談や、八王子市親子ふれあい広場の運営をしています。

塩谷さん：里山保全活動を農業中心に行っています。畑、田、雑木林、炭焼きとなんでもします。

吉田さん：女性支援を目的に活動しています。八王子市親子つどいの広場堀之内を運営、堀之内駅前に、いろいろな用途で使える場「クオレ」をオープンさせました。

炭谷さん：子ども達に色々な経験をさせたいと、子どもの居場所づくり「タマリバ」を運営しています。

キーワード：課題「人・もの・金・場所」

司会：皆さん、活動の分野は違いますが、地域課題の解決を目指しているところは共通していますね。活動を通し、課題と感じていることや、共有したいことなどについて、

お聞きしたいと思います。

炭谷さん：一般的に市民活動の課題としてよく言われるのは、人・物・金それに場所。私たちは、幸い人には恵まれました。活動の立上げ時は、八王子市市民企画事業補助金を利用し、場所も家庭の電話を使う程度だったので必要ありませんでした。ただこれからは、この4つの課題をどう乗り越えていくかが問題だと思っています。

板垣さん：地域に根差すことを目的に、地域の人に支援者になってもらい、スタートしました。阪神淡路大震災の頃は、ボランティアも多くいた時期で、かなり華々しいスタートでした。12年経った今、自分たちで得たもので、活動を広げていきたいと思っているのですが難しいですね。人もなかなか集まらなくなっています。やはり人材、資金の面が課題です。

吉田さん：資金面は、本当に大変ですね。行政や企業の状況も厳しく、助成金、補助金はとてもシビアです。考えれば、応募する団体が増えているということだと思います。市民活動の広がりが、財政難を招くということでしょうか。私たちは、当初から無償ボランティアは考えていませんでした。持ち出しはせず、交通費と食事代ぐらい、で

2 頁に続く→

期待される市民力 ステージアップに向かって

まもなく10周年を迎える「八王子市民活動支援センター」が開設された平成15年は、八王子の市民活動元年とも言われております。もちろん、それ以前から様々な市民活動はありましたが、行政が市民活動の必要性を認識し、制度的な支援に着手した時であったという意味で、画期的な年であったのではないのでしょうか。

以降、様々な市民活動が立ち上がり、地域課題解決への取組がなされてきました。

しかし、その道は決して平坦ではなく、人材、資金、情報等多くの問題を抱えながら試行錯誤の道のりが続いていきます。また、様々な要因で、単独では課題解決が難しくなったり、ニーズに十分応えられていないなど、多様な団体が連携し、協働することも求められています。

一方、平成23年の東日本大震災をきっかけに、市民活動を取り巻く環境は大きく動きました。行政だけでは成し得ない課題解決には、地縁組織、ボランティア、市民活動団体に多くの期待が寄せられました。そして、寄付税制、NPO法の改正は、市民活動の社会的認知をさらに前進させる可能性と同時に透明性や健全性等の資質の向上を求めています。

そんな中、当支援センターでは、アンケートによる市民活動実態調査や、様々な分野の方々にお集まり頂き、どのように地域の課題解決に向きあい、その目的を実現して行くのか等語って頂く座談会を開催しました。今回の特集号ですべてを表現できるわけではありませんが、市民力としての市民活動の今後を考えるうえで何かのきっかけになれば幸いです。

支援センター長 大山 健三

できればお小遣い程度を得ることが、長続きする秘訣だと考えているので、自主事業で半分くらいを目指しているのですが、なかなかそうはいかないですね。

塩谷さん：私たちの世代は農業経験者が多いし、農業をやっている人もいますので、人や道具は困りませんでした。私たちは無償ボランティアで、農業の経費は農業で賄っていたので、お金の問題もない。私たちの問題は場所ですね。
司会：後継者の問題についてはいかがですか？

板垣さん：立上げ時には、5年ぐらいで世代交代をするのが成功する術だと聞いていたのですが、12年経ってしまいました。世代交代したいと思うのですが難しいです。

塩谷さん：50～60代の人たちで、稲作ができる人を探すのは大変なので、私たちは自分たちの代で辞めることにしました。昔ながらの農業は力仕事だから、だんだんできなくなってきましたね。NPO法人の解散も、自分たちが元気なうちじゃないとできなくなるので、できるうちに法人の解散をしました。これからは自分たちができることを続けていこうと思っています。経験のない人も参加できるような、協働で運営できる公共の施設や場があれば、活動も引き継ぐこともできるけど。今後の課題ですね。

炭谷さん：おっしゃる通りですね。今は農業体験のニーズはとても強いと思います。教育的にもとても重要だと思います。一般市民は家庭菜園どまり、塩谷さんのように知識のある方のアドバイスは、とても貴重です。活動が継承されるような公的な場があると良いですね。

キーワード：協働・連携

司会：農業は一地域の問題ではなく、日本の文化の原点だと思います。将来日本の原風景を知らない子どもたちを想像すると怖い気がしますね。今塩谷さんから「協働」という言葉がありましたけど、やはり一団体だけの活動に限界が見えてきているように思います。皆さんは協働についてどうお考えですか？

吉田さん：行政との協働は、まだ始まったばかり。本当の意味での協働の関係を築くには、お互いがもっと経験を積む必要があると思います。協働において力を発揮するため

にも、私たちは実績を積むことを意識しています。
司会：地域との連携についてはいかがでしょう。

塩谷さん：地域に理解してもらわなければ、農業はできない活動ですから、地域とのつながりはあります。

板垣さん：私は、町会自治会とかNPOだとか、意識したこととはいいません。結局人と人のつながりだと思うので。私たちがやりたいことを、町会自治会や学校など、みなさんが協力してくれましたね。

吉田さん：町会自治会や地域と市民活動、それぞれ得意分野があると思います。町会自治会には地域の情報や横のつながりがありますよね、お互いの得意分野で協力できると良いと思います。

炭谷さん：それぞれの良いところを結び付ける活動を後押ししてくれるような補助金があると良いですね。いろいろテーマはあると思うのですが、まずは「子ども」と「防災」。多くの人が関心を持っていることだと思うので。どちらも地域が基盤となるので町会自治会の力は不可欠で、そこに専門性を持ったNPOを結び付ける。お互いに協力していけば、住みやすいまちになると思います。

キーワード：自分達の活動にあった法人の形

司会：皆さんのお話からすると、いろいろな団体がそれぞれの得意分野でつながることが大切そうですね。少し話題を変えますね。今回のアンケートによると、90%位の団体は法人化の意思がありませんでした。必ずしも法人格に魅力を感じているわけではないようですが、寄付文化が根付くには、法人化を考えていく必要が出てくるかもしれません。皆さんはどうお考えですか？

吉田さん：設立時、株式会社にするか、NPO法人にするか、迷いました。ただ私たちは、それまで受けていた仕事の相手先から、本格的にやっていくのであれば、NPO法人でなければ委託できないと言われ、NPO法人にしました。結局認証が下りるまでに時間がかかり過ぎて間に合いませんでしたけどね。



ようですね。そういうことをしてくれる団体が出来ると良いなと思いますね。

吉田さん：各団体、活動しながらのホームページの更新は必死です。外部の人に頼もうにも、活動がわかっていないと作れないし、思いを伝えるって大変。支援センターでその辺をフォローしていただくと嬉しいです。

センタースタッフ：皆さんの期待に応えられるよう日々努力していきたいと思っています。

キーワード：緩やかなつながり

司会：市民活動は全体的に高齢化しているようですが、若い方は市民活動をどのように捉えているのでしょうか？

高井さん：若者の市民活動への関心が有る無しではなく、地域に関わる機会がないですよ。地域に魅力をみつけた若い人は、その地域に住んだり、活動を起こしたりしています。急なつながりではなく、ゆるやかなつながりが大切、飲み会も有効だと思います。その中から、自分に合ったテーマを見つけ、新しいつながりができていくと思います。

炭谷さん：若い人に参加してもらう時に気を付けることは、自由裁量を認めてあげること。「学生さんに手伝って欲しい。」という人がいますけど、そこには学生を育てるという配慮が少し欠けているように感じます。市民活動団体も気を付けなければいけないと思いますね。

吉田さん：若いお父さんで作る「カシュパパの会」では、皆さん生き生き活動されています。知るきっかけさえあれば、どんどん参加してくれると思います。

司会：環境さえ整えば、市民活動に積極的に関わる若い人達がいるということは大変頼もしく、緩やかなつながりの中に、新しい可能性を感じます。また皆さんの話しを通し、これからは一つの団体だけではなく、多様な団体が連携し、力を合わせていくことが求められていると、改めて確認できたような気がします。もっと多くのことを話し合えればと思っていたのですが、あっという間に時間が経ってしまいました。有意義なお話をありがとうございました。

★★こらむ★★ 地域を支える人たち “今とこれから”



市民活動支援センターは、公益的な市民活動の支援を目的に平成15年6月に設置しました。この間、市民活動を取り巻く環境は大きく変化してきました。昨今では「新しい公共」という言葉が、これまで官だけが担ってきた分野を、市民、町会・自治会、市民活動団体など様々な主体が協働で担い、ともに支えあう仕組みが求められています。とりわけ、「新しい公共」を担う力として、市民活動団体への期待は高まっています。市民活動活動をさらに活性化し、本市を「活力ある魅力あふれるまち」にしたい。市民活動の発展を祈念してまいります。



八王子市町会自治会連合会 会長 秋間利久

部長 伊藤紀彦



道の駅八王子滝山 駅長 芥川麻実子

道の駅に、国土交通省から義務付けられている3か条がある。休憩、情報発信、地域連携。その3つが交差することによって、道の駅の賑わいを創出している。道の駅がその魅力を発揮しているのは、地域ぐるみでそれぞれの特徴を毎日進化させていること。地域らしさを、より一層お客さまに感じていただくためへの努力が、結果として賑わいを生んでいるのである。道の駅を通して、地域の人々がより強く結ばれることを願ってやまない。



法政大学名誉教授 山岡義典



市民活動支援センターは、さまざまな市民活動の結節点として着実な力をつけてきたように思います。ここから多くのネットワークが生まれ、市民活動への参加が促進されてきたことでしょうか。今後は、さらに個々の組織の力量形成が期待されます。単なるマネジメント能力だけではなく、発想豊かにし、それを実現していく組織力です。地域の共感の輪を広げ、地域の人々を巻き込み、新しい地域社会を共に築いていく力です。このような動きを積極的に担うセンターとして、これからも益々の発展を祈念してまいります。